

元野地区遺跡

(高野原遺跡)

県営農地保全整備事業元野地区に
伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告



1994

宮崎県宮崎郡田野町教育委員会

序

田野町では、各地で農地保全整備事業等が行われてきました。また、これらに伴い多くの遺跡が発見されましたが、その一方で消滅する数も徐々に増加しつつあります。教育委員会では協議を重ね、できる限り現状のまま保存できるよう努力しているところでありますが、工事の設計上やむをえず消滅する部分については発掘調査による記録保存の措置をとっております。

本書で報告いたします『元野地区遺跡』は元野地区県営農地保全整備事業に伴い実施しました発掘調査の概要を記録したものであります。

調査の結果、縄文時代早期～後期の石器や土器のはか、旧石器時代の可能性が考えられる礫群などが発見されました。

本書の刊行を機に、皆様の文化財保護に対する認識を一層深めていただければと願うものであります。

平成6年3月31日

田野町教育委員会

教育長 鍋倉政信

例　　言

1. 本書は、平成5年度出野町元野地区県営農地保全整備事業に伴い実施した、元野地区遺跡発掘調査の概要を報告するものである。

2. 調査は、国庫の補助並びに宮崎県中部農林振興局の委託を受け、次の体制で行った。

調査主体　田野町教育委員会

調査組織　田野町教育委員会

教　育　長　鍋倉 政信

社会教育課長　前田 久育

同補佐兼係長　長友 啓泰

同　主　查　長友 カツ子（調査事務担当）

同主任主事　森田 浩史（調査担当）

調査指導　宮崎県教育庁 文化課

3. 発掘調査には作業員として町内をはじめ山之口町に至るまで、多数の皆様のご協力を得た。

室内における遺物整理には [] らの補助を得た。

4. 調査地の写真撮影及び測量は教育委員会でおこなったが、一部業者に委託したほか、町農業整備課の協力を得た。

5. 本書の執筆・編集は主に森田が担当した。

6. 本書に用いた方位は磁北、標高は海拔絶対高である。

7. 本書に用いた土色は、農林省農林水産技術会事務局監修の「標準土色帳」による。

本文目次

第Ⅰ章 序説	1
第1節 発掘調査に至る経緯	1
第2節 遺跡の位置と環境	1
第Ⅱ章 調査の結果	3
第1節 調査の概要	3
第2節 造構と遺物	5

挿図目次

第1図 町内遺跡分布図	
第2図 調査区周辺地形図	2
第3図 基本土層柱状図	3
第4図 調査区概要図	4
第5図 集石1実測図	6

写真図版

P L01	A区全景・A-3区全景	7
P L02	A-1区砾群出土状況	8
P L03	A-1区砾群出土状況・集石1検出状況	9
P L04	A-1区縄文時代早期の焼砾出土状況	10
P L05	縄文時代早期の出土遺物	11
P L06	縄文時代後期以降の出土遺物	12



第1図 町内遺跡分布図

第1章 序 説

第1節 発掘調査に至る経緯

田野町元野地区では、平成4年度から県営農地保全整備事業が実施されている。当地においては発掘調査及び詳細分布調査により、おおよその遺跡所在地を確認していた。

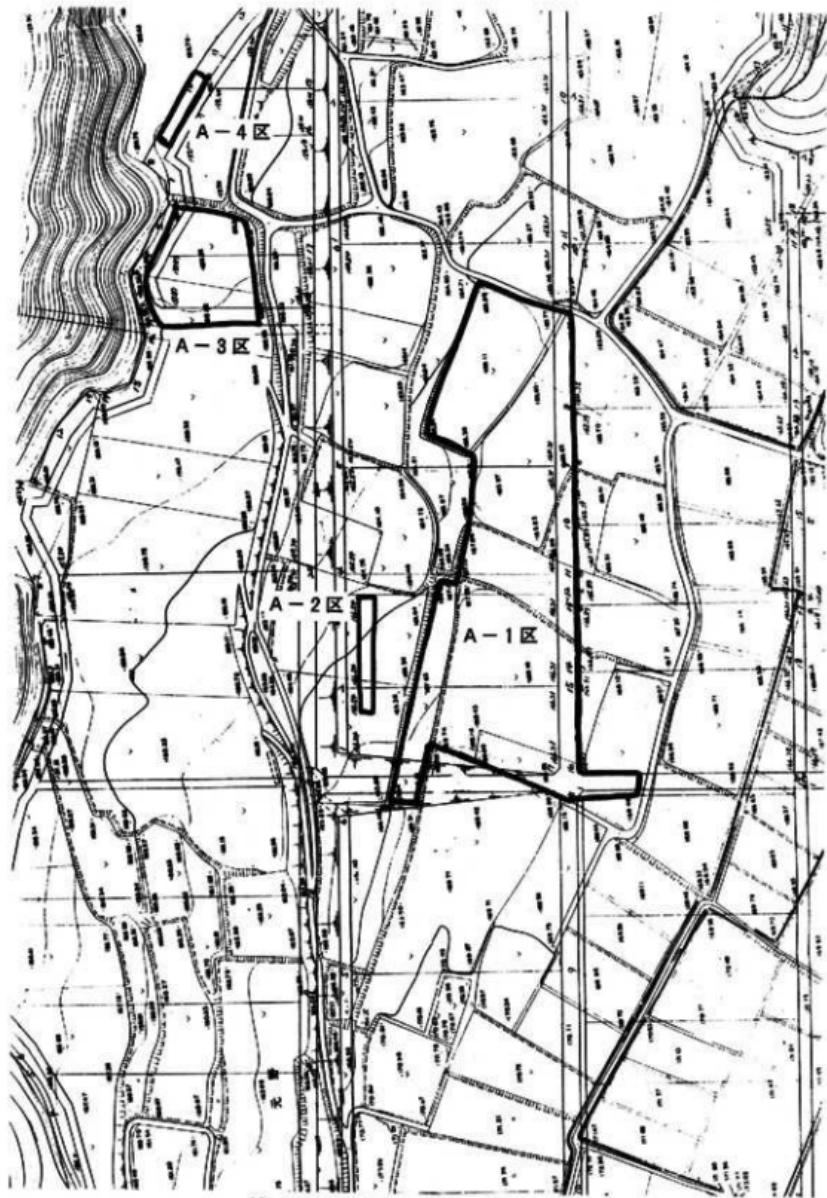
平成4年度は本野遺跡の発掘調査と高野原遺跡の確認調査（地中レーダー探査）を実施した。平成5年度も遺跡の所在を確認している通称高野原が工事区域にかかったため、県文化課により試掘調査が行われ、遺跡の中心からややはざれているものの、その所在を明確にした。以後、当地の現状保存等について宮崎県中部農林振興局と再三にわたり協議を行った。しかし、その一部においては設計上現状保存が不可能であることから発掘調査による記録保存の措置をとることで合意した。平成5年9月には関係諸機関との協議もほぼ終え、平成5年9月6日付けで委託契約を締結し、同年9月24日から発掘調査に着手した。

調査にあたっては元野地区住民の皆様、中部農林振興局並びに関係諸機関の方々には並々ならぬご理解とご協力を賜りましたこと、ここに記して感謝申し上げたい。

第2節 遺跡の位置と環境

田野町は宮崎市の南西約20kmの田野盆地を中心として、東西・南北に約14km、総面積は109.01km²に至る。南方には標高1,118mの鰐塚山があり「イワザクラ」「マツゲカヤラン」「ケクサスゲ」「ナヨテンマ」「ヒュウガヒロハテンナンショウ」などの稀少な植物が自生する。また町内の各地で貝類・カニ・ウニをはじめ「オバキユリナ」等の海洋生物の化石が採集され、「日向地誌」には「田野村の化石溪」として記載されている。

元野地区は町役場から南西約2.5kmの比較的広大な台地上にあり、以前から土器や石器が採集されていたほか、昭和54年には農作業中に地下式横穴墓も発見されている。平成4年度に実施した本野遺跡の発掘調査では、縄文時代前期～後期の遺物包含層と弥生時代中期末の竪穴住居跡群が発見された。また、近隣には七野地区遺跡（丸野第1第2遺跡・長蔵遺跡）黒草地区遺跡（黒草第1～第3遺跡）井手ノ尾遺跡をはじめとする多数の遺跡群が所在し、前平地区遺跡（芳ヶ迫第1～第3遺跡・札ノ元遺跡・又五郎遺跡）と並ぶ、遺跡の密集地帯でもある。これらは、いずれも縄文時代の遺跡を伴う。



第2図 調査区周辺地形図

第II章 調査の結果

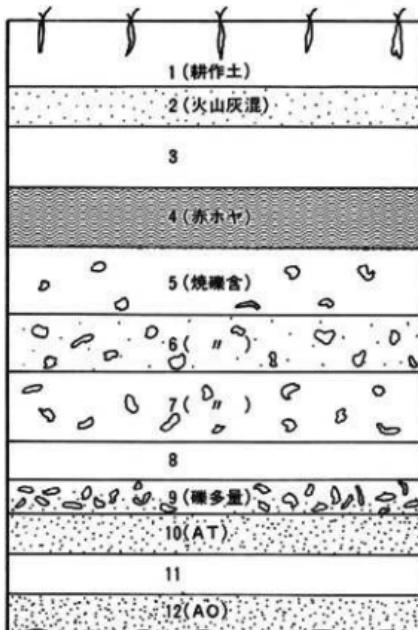
第1節 調査の概要

調査区の設定は高野原遺跡の調査が数ヶ年に及ぶことを想定して、今年度調査区をA区とし、その中の区分については数字の枝番号をふった。調査対象面積はA-1区が $10,000\text{m}^2$ 、A-2区が $1,200\text{m}^2$ 、A-3区が $1,500\text{m}^2$ 、A-4区が 300m^2 、の全体で約 $13,000\text{m}^2$ に至った。

層位は上層から〔第1層〕耕作土、〔第2層〕(黒色10YR1.7／1)土層、〔第3層〕(黒色10YR2／1)土層、〔第4層〕赤ホヤ火山灰堆積層、〔第5層〕(黒褐色10YR2／2)土層、〔第6層〕(黒褐色10YR2／3 火山灰粒混入)土層、〔第7層〕(黒褐色10YR3／2)土層、〔第8層〕(暗褐色10YR3／4)土層、〔第9層〕(褐色10YR4／6)土層、〔第10層〕AT堆積層、〔第11層〕(黒褐色10YR／)土層、〔第12層〕A-OT堆積層を基本とする。第10層はATもしくはその風化層とみられる。これらはA-1区のトレンチで確認したものであり、他の調査区においては若干異なる可能性がある。

遺物は第5～7層から縄文時代早期の土器や焼碟等が出土しており、同期の包含層とみられる。第9層から土器を伴わない焼碟または碟群が出土しており、旧石器時代の包含層である可能性を検討する必要がある。また赤ホヤ堆積以降の第2・第3層及び耕作土中からは、縄文時代後期以降の土器片が少量ながらも出土している。

早期の造構は土坑が1基と集石造構が1基のほかは散石程度にとどまった。



第3図 A-1区基本土層柱状図



第4図 調査区域要図(A-1区 西側)

第2節 遺構と遺物

遺構の検出作業は、主に第5層・6層及び第7層の上面でおこない、A-1区の第6層上面において集石遺構と土坑をそれぞれ1基検出した。また、A-1区の北西（畠1枚）部分においては、第9層掘り下げ段階で疊群を検出した。

集石1は約180cm×160cmの、ほぼ円形に疊を配置するもので明確な土坑を伴わない。疊は、コブシ半分から手の平サイズのものが大半を占める。土器は出土せず、転用された石皿等と少量の炭化物が見られた程度であり、縄文時代早期のどの段階にあてはまるもののかは現在のところ明確にできない。また、これから浅い谷を隔てて約45m離れた一帯で、同層と第7層から、疎らであるが焼疊の分布を確認しており、いずれも熱を受けた痕跡が見られる。集石遺構から廃棄されたものか、或いは自然に流出したものなのかは不明である。第6層精査の段階で平底式土器の破片が出土している。今後詳細な整理をすすめていく段階で相互の関連を考察していく必要がある。

A-1区の北西部の第9層で検出された疊群は土器・石器を全く伴わないので、当初は洪水等の上砂の流出によって形成された疊層ではないかとの疑問を持ったが、作業を進めていくうちにかなり密な状況で分布することがわかり、その総数はコブシ大サイズを中心にして約36,000個を数えるに至った。全てとは言えないが、熱を受けているものが多い。残念ながら時代を推定する遺物は無いが、ATの直上層に存在することから、旧石器時代のものである可能性がある。

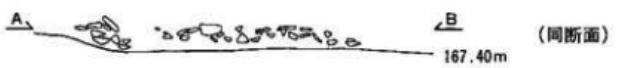
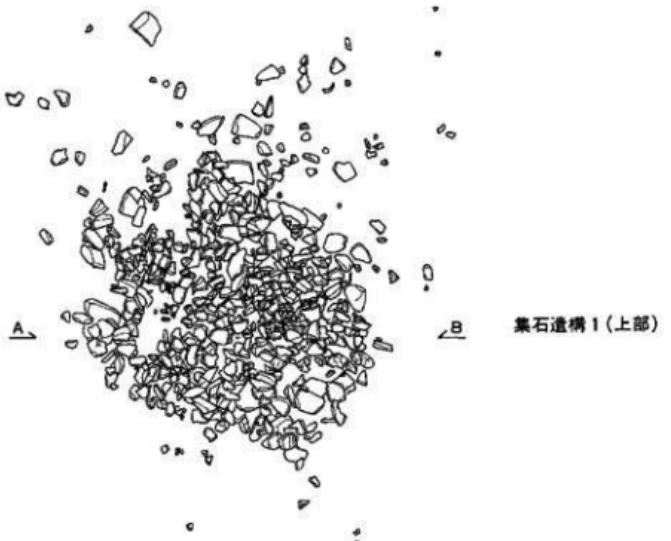
A-1区北西端の傾斜地においては、第1層及び第2層から縄文時代後期、占墳時代のほか時期不明の厚手の土器片が出土しており、この南側未調査部分に遺構・遺物包含層が所在するものと思われる。

A-2・3・4区においては、黒色土層内から縄文時代後期の土器片が出土している。いずれも貝殻腹縁刺突文を施し、内外面を貝殻条痕による調整が見られる。平口縁と波状口縁があり、波状口縁のものは太く明瞭な沈線を組み合わせるものである。これらは、前年度に調査した本野遺跡においても出土している。

以上のとおり、高野原遺跡A区は多時期にわたる複合遺跡であることを確認したが、いずれも遺跡の中心部からは外れているものとみられ、今後の調整・調査にあたっては、より慎重に取り組んでいきたい。

〔参考文献〕

「丸野第2遺跡」田野町文化財調査報告書第11集 1990 田野町教育委員会

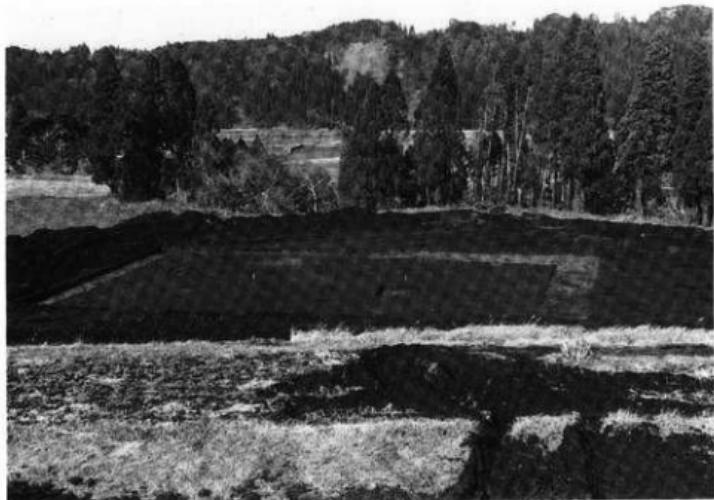


第5図 集石遺構1 実測図 (S:1/40)

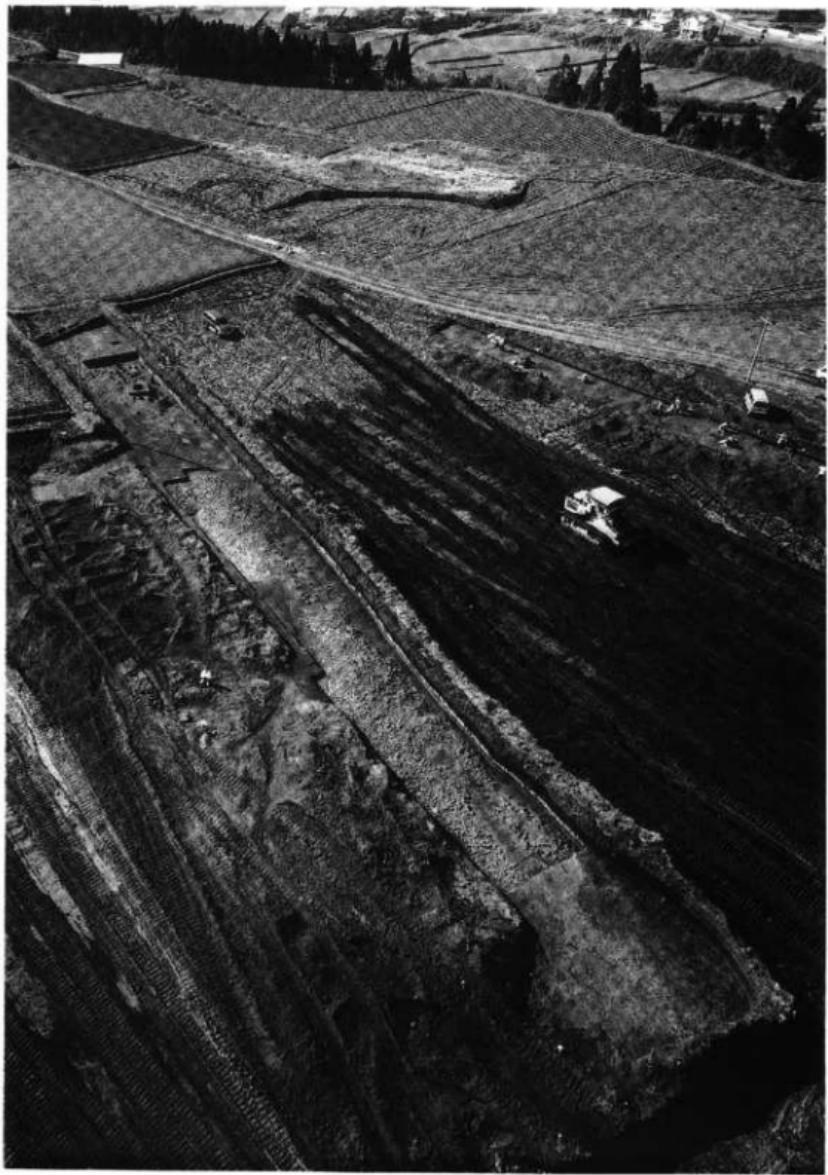
PL-1



A 区 全 景 (東から)



A-3区 全 景 (南から)



A-1区 磯群出土状況(東から)



A - 1 区 磚群出土状況



集石遺構 1 検出状況



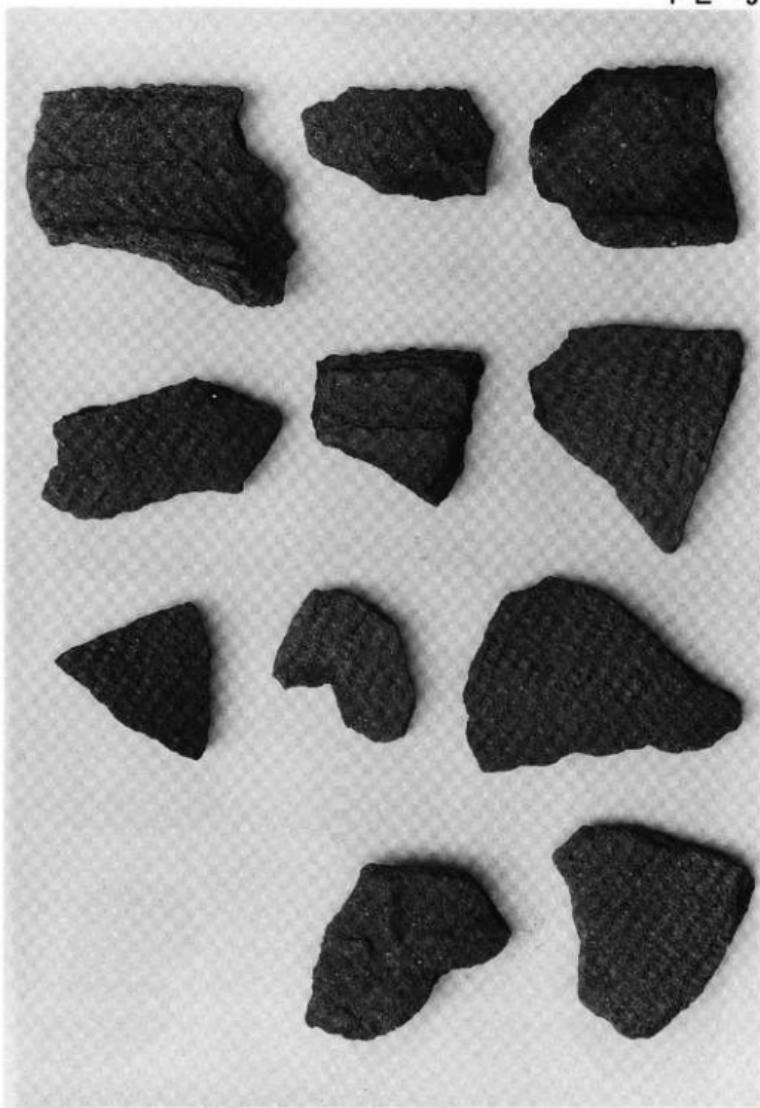
A-1区 繩文時代早期の焼窯出土状況(西から)



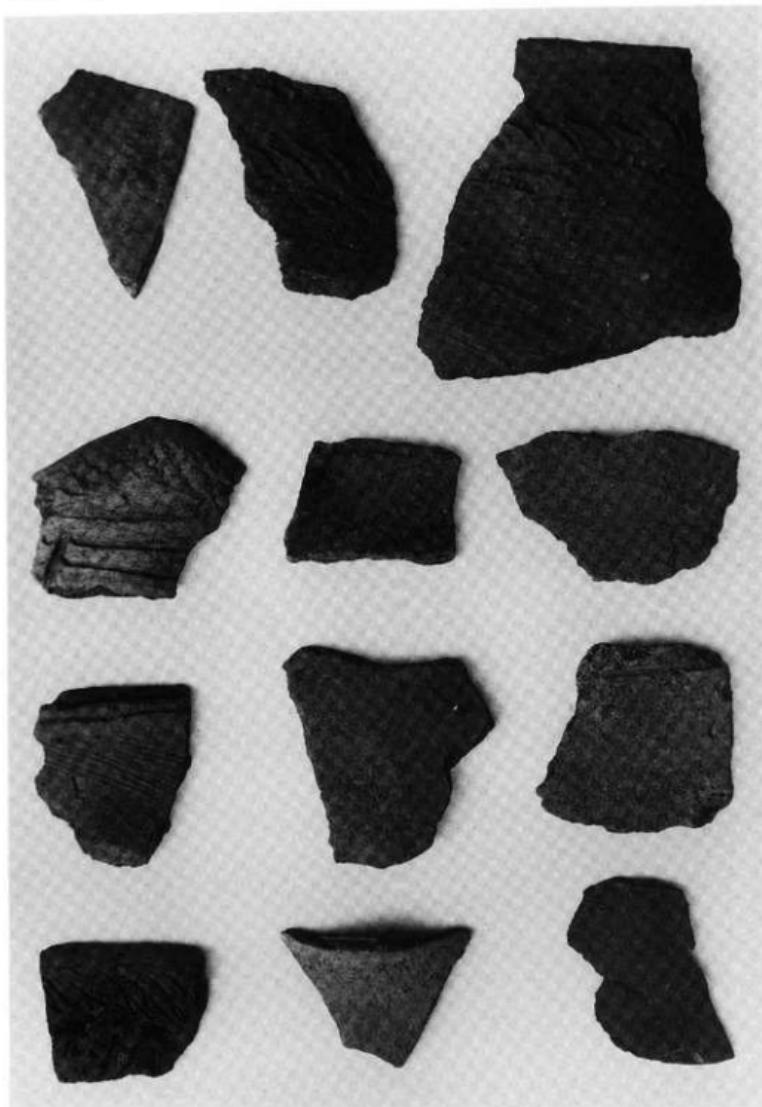
同

上

(東から)



縄文時代早期の出土遺物



縄文時代後期以降の出土遺物

田野町文化財調査報告書 第18集

元野地区遺跡

発行年月 1994年3月

編集・発行 田野町教育委員会

印 刷 常安藤印刷